

第 26 回岩手県理学療法学会大会

「原点回帰」

～本質を探る旅に出かけよう～

【趣意書】

日本理学療法士協会の理念に、私たちは理学療法士として、すべてのひとの健康と幸福を実現するために、一、「尊厳ある自立」と、その「くらし」を守ります。一、真に求められる理学療法科学の探求と創造、そして自らの技能と資質の向上に努力します。一、必要な提言や社会的行動を精力的に行います。とあります。

理学療法士としてこの理念に向き合ったとき、現在、自身が置かれた立場をどのように捉え、考えるのか。臨床や教育、研究、行政など様々な立場から、その先にある向き合うべき対象や方向性は多岐に渡ります。日々の業務を通じ、向き合うべき対象の方に対してどう関わるのか、そのためには日々の臨床や学習を通して実践していく思考やその過程が重要と考えます。多様な疾患や病期において、その個別性や複雑化する社会背景に対して、より最適な支援を提供することが必要であり、そのための基礎知識や技術のアップデート、臨床思考、社会性など理学療法士としてだけでなく、ひととしての資質も求められます。

理学療法士として社会にどのように貢献できるのか、多様化する働き方や考え方、職域の拡大、関わるべき対象も非常に複雑になる中で、今一度、理学療法士としてどうあるべきなのか、その本質を考える機会が必要と思います。

本大会では今一度、原点に立ち返り、基礎となる解剖学的知見、臨床、教育、研究といった側面からご活躍の先生方にご講演いただきます。理学療法士の本質に向き合える場として、会員の皆様の更なる発展に寄与できる機会にできればと思います。

第 26 回岩手県理学療法学会大会
大会長 野中一成